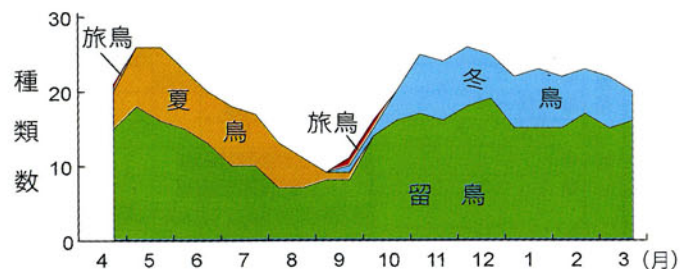




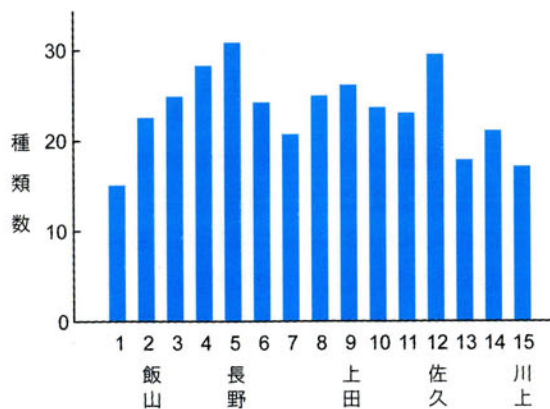
9月の夏の時期に少ないという結果でした。最も多くの鳥を観察できる時期は、夏鳥たちがそろった春の5月と冬鳥がそろった12月で、これらの時期がバードウォッチングには最適の時期といえます。



出現種数の季節変化

### どんな場所に多くの鳥が見られるか

河川の上流から下流まで、どこでも同じ種類の鳥を観察できるわけではありません。下図は、1993年～94年にかけて河川水辺の国勢調査の一環として、千曲川上流の川上村から下流の飯山市までの計15地点でほぼ毎月調査した結果、それぞれの場所で年間を通し観察できた鳥の種類数を示したものです。これによると、最も多く観察された場所では47種、少ない場所では23種と場所により大きな違いがありました。一般に川幅が広くゆったりと蛇行して流れる佐久、上田、長野、飯山といった盆地の中央部で種類数も個体数も多く、山地に囲まれた川幅の狭い部分で少ない傾向があります。



ラインセンサス調査地点と出現種数 (千曲川流域)

### 種類により異なる河川との関わり

千曲川や犀川で見られる鳥は、年間を通して河川に依存して生活する鳥からときどき訪れる程度の鳥まで、種類によって河川との関わり方は様々です。しかし、その関わり方は、以下の4つに分けることができます。

#### A: 主に河川内の水辺で生活する鳥

河川の水辺で主に餌を採り、ほぼ河川内のみで生活している鳥です。河川の鳥と呼ぶにふさわしく、一般に水鳥と呼ばれています。

このグループには、河川内で繁殖する鳥のほか、冬に訪れて越冬する鳥がいます。コチドリ、イカルチドリ、イソシギなどの水辺で餌を採る鳥、カワセミ、ヤマセミなどの水に飛び込んで魚を採る鳥、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ササゴイなどのサギ類、さらにコアジサシ、カイツブリ、カルガモなどがその代表です。

#### B: 河川の内と外どちらでも生活している鳥

ヒバリ、モズ、ホオジロ、キジバト、キジ、ジジュウカラ、ヒヨドリ、ハシボソガラスなどのように、河川内だけでなく河川の外でも見られる鳥がこれにあたります。これらの鳥は、河川内にも生活できる環境があるので見られるというだけで、河川環境に依存して生活する鳥ではありません。

#### C: 餌を採るためや休息・ねぐらのために河川を訪れる鳥

このグループの鳥は、生活の本拠地は河川の外にあります。一年のある時期に限って、餌を採るためや休息やねぐらのために河川を訪れる鳥で、スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、コムクドリがその代表です。

#### D: 渡りの途中一時的に河川に立ち寄る鳥

ノビタキ、ショウドウツバメ、アマツバメ、ノゴマなど、春や秋の渡りの時期に、一時的に河川に立ち寄っていく鳥です。

千曲川に生息する鳥類の河川利用形態のタイプ

| 河川利用形態のタイプ                        | 代表的な鳥                                                                            |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| A: 河川内のみで生活する鳥                    | カイツブリ、カルガモ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ササゴイ、コチドリ、イカルチドリ、タゲリ、イソシギ、ユリカモメ、コアジサシ、カワセミ、ヤマセミ、セグロセキレイ |
| B: 河川の外でも生活する鳥                    | キジ、キジバト、モズ、ホオジロ、ヒヨドリ、オナガ、ハシボソガラス、カッコウ、ヒバリ、チョウゲンボウ                                |
| C: 主に河川外で生活し、採餌、休息、ねぐらのために河川を訪れる鳥 | ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、トビ、ノスリ、ドバト、ツバメ、イワツバメ、コムクドリ                                        |
| D: 渡りの途中に一時的に立ち寄る鳥                | ノビタキ、ショウドウツバメ、アマツバメ、ノゴマ                                                          |

河川で鳥を見たら、その鳥は何の目的で河原にいるのか、上記4つのどのグループに当てはまる鳥かを考えてみて下さい。先の長野市郊外の千曲川で観察された63種類の鳥について、河川との関わりといった視点で見ると、Aの河川内の水辺で生活する鳥は24種(38%)、Bが16種(25%)、Cが20種(32%)、Dが3種(5%)でした。

このことから、河川で観察される鳥のうち、河川に強く依存して生活する「河川の鳥」と呼ぶにふさわしい水鳥は、4割にも満たないことが分かります。

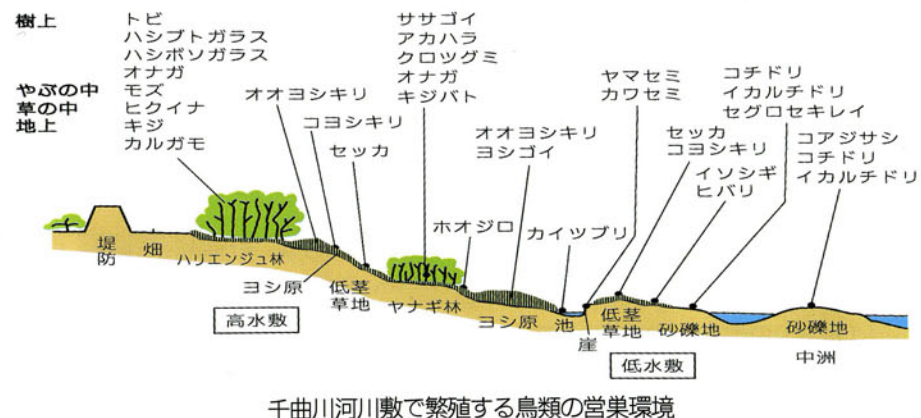
### 千曲川・犀川に何種類の鳥がいるか

千曲川・犀川には何種類の鳥が生息するのだろうか。この素朴な質問に答えることは、実は簡単なことではありません。まず、千曲川といっても源流の甲武信岳から新潟県に流れ下るまで約214kmの流路があります。また、犀川も源流の槍ヶ岳から千曲川と合流する落合橋まで161kmあるからです。さらに、その中の一地域をとっても、先に説明したとおり、そこに生活している鳥の種類は季節により変化するからです。

日本野鳥の会長野支部が1981年～82年に千曲川の60地点で行った調査によると、年間を通して計83種類の鳥を観察しています。また、犀川鳥類研究グループが1985年～86年に犀川の26地点でほぼ毎月行った調査では、計93種類を確認しています。さらに、現・千曲川河川事務所が1993年～94年に毎月行った河川水辺の国勢調査では、千曲川・犀川合わせて18地点で150種類を確認しています。これらの調査を合わせると、これまでに千曲川・犀川で確認された鳥は180種類ほどになります。長野県全体では303種類の鳥が確認されているので、そのうち約6割が千曲川・犀川で観察されていることとなります。

### 種類ごとに異なる繁殖する場所

河川内には、さまざまな種類の鳥が繁殖していますが、種類ごとに繁殖する環境が異なります。千曲川で繁殖するさまざまな鳥の繁殖場所を下図に示しました。



水際で繁殖する鳥がカイツブリです。川の流れが変わることのできたワンドと呼ばれる池や水位変動の少ないダム湖など、流れのほとんどない岸辺の水草の中に枯れ草を集めて浮き巣を造ります。



川の流れから取り残されたワンド

下：カイツブリの浮き巣

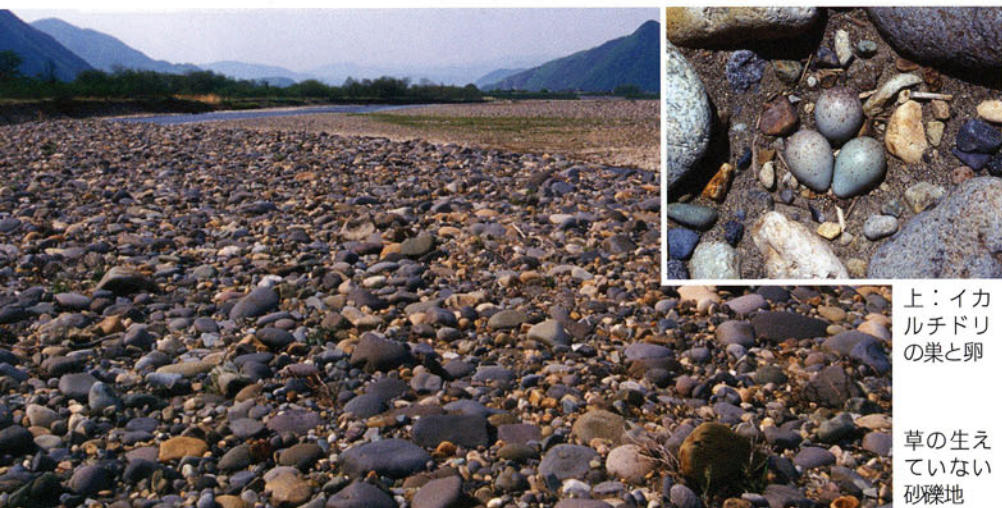
増水で削られてできた水辺の垂直の崖には、カワセミやヤマセミが穴を掘って繁殖します。



上：ヤマセミの巣穴

増水で削られてできた崖

コチドリ、イカルチドリ、コアジサシは、増水によってできた草が全く生えていない砂礫地に巣を造ります。特にコアジサシの場合は、テンやイタチといった地上性の捕食者が近づきにくい、中洲の砂礫地に集まって集団で巣を造ります。また、砂礫地に流木などがあるとその下や石のすきまなどに、セグロセキレイが巣を造ります。

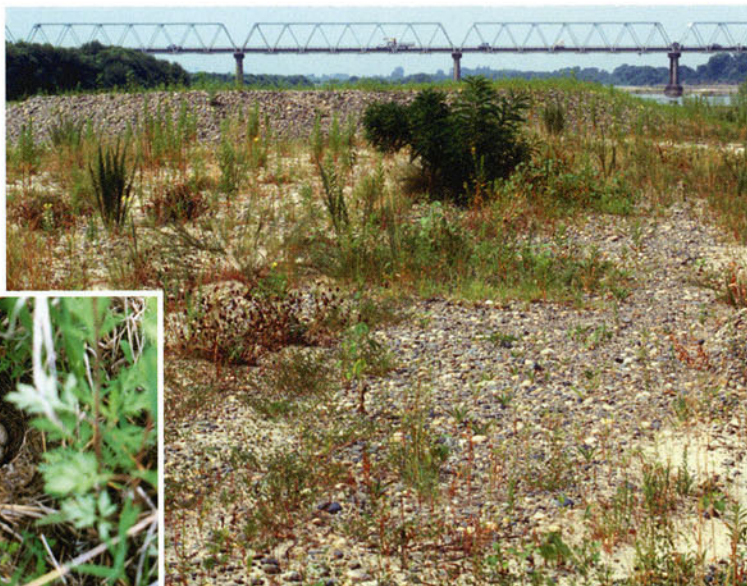


上：イカルチドリの巣と卵

草の生えていない砂礫地

増水後にできた砂礫地も、1年もたつと草が生えてきます。まばらに草が生えた場所には、イソシギやヒバリが草の根元に巣を造ります。

まばらに草が生えた砂礫地



ヒバリの巣と卵

草がさらに密に生えた場所には、ホオジロ、セッカ、コヨシキリ、カルガモ、キジが草の中に巣を造ります。



ホオジロの巣とヒナ (撮影：山上)

密な草むら

オギやヨシなどの背の高い草が一面に生えたヨシ原には、オオヨシキリやヨシゴイが巣をかけます。



河原に広がるヨシ原

上：ヨシゴイの巣と卵  
下：オオヨシキリの親鳥と巣

草地の中にノイバラなどのやぶやヤナギ類などの低木が入り込むと、それらの中にモズやホオジロが巣をかけます。



カッコウのヒナに餌を与える  
モズのメス

低木の茂るやぶ

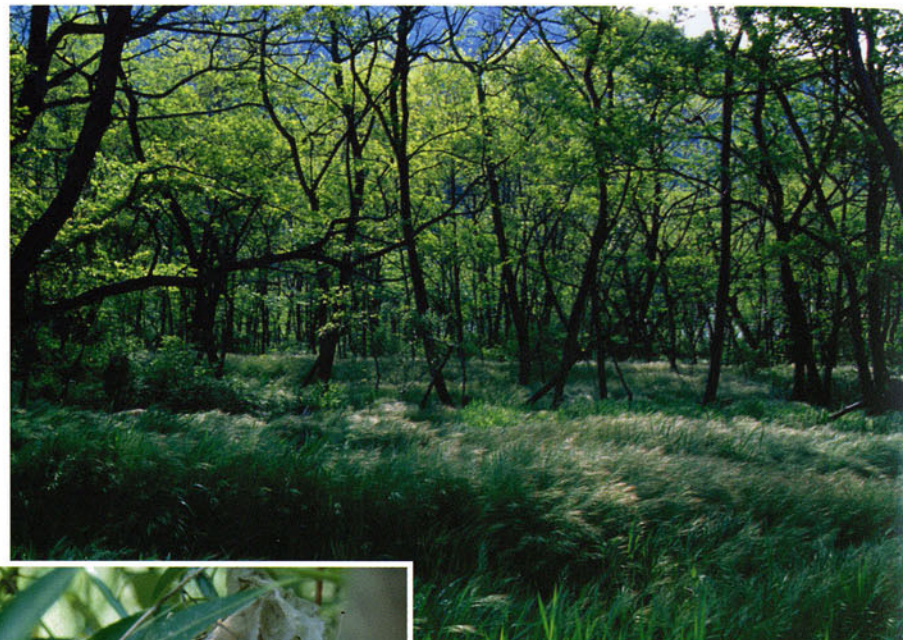
木が高くなるとキジバト、ヒヨドリ、ササゴイ、オナガ、ハシボソガラスも巣をかけます。



ササゴイの巣と卵

高木にかけられた  
ハシボソガラスの巣

さらに密な林になると、アカハラ、クロツグミ、アカゲラ、シジウカラなど、本来は森に住む鳥が巣をかけるようになります。人のあまり近づかない安全な林では、トビやノスリといった猛禽類が巣をかけることもあります。



木が成長し、密になった林



アカハラの巣と卵